

**みやぎNPO夢ファンド(C)スタートアップ支援プログラム
平成19年度助成事業 最終報告書**

書式 4

年 月 日

団体名	みやぎ夢燈花	
事業名	みやぎ夢燈花 2007	
連絡担当者お名前(ふりがな)	石田 麻衣子(いしだ まいこ)	
担当者	電話	F A X
	E-Mail	
<p>助成金を使って行った事業について、ご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)</p> <p>事業当日、撤収作業である翌日ともに概ね、予定したタイムスケジュール通りに事業を実施することができた。負傷者や事故など大事に至ることも無く、終了することができ胸を撫で下ろしている。</p> <p>天気予報では雷雨、準備中に雨がぱらつく時もあり、天気と客足を心配したが、当日の来場者は、約 300 人。幻想的に照らされた 1,500 個のキャンドルに、大人と子どもが一緒になって笑みを浮かべる様子に、ゼロからのスタートで苦労もあったが、この事業を立ち上げた甲斐があったと感動もひとしおだった。</p> <p>当日の昼間に、荒川知子さん一家(リコーダーとフルートの演奏)のリハーサルを行った。綺麗な音色が会場付近の地域に響き渡り、良い宣伝となったようだ。音を聞きつけて会場に足を運んでくださった地域住民の方も多数いて、夕方から始まる本事業の宣伝をすることができた。反応は好感触で、実際、開会式の後、「来ましたよ」とお声かけ下さった方々もいた。</p> <p>オープンカフェのボランティアスタッフの力量にも関心した。力仕事であるテント設営は実行委員の男性スタッフを中心に行ったものの、残りの作業全般は、パイプ椅子と長テーブルの配置、調理器具や食材の運搬、そして、その後の料理など、およそ十数名のスタッフが手際良く作業に取り組んでくださった。温かい飲食物が出るオープンカフェは、関係者と来場者の癒しの場となっていた。</p> <p>舞台美術を勉強中の学生が提案してくれたキャンドル陳列のレイアウトは、非常に立体的であり、幻想的な世界をかもし出していた。1,500 個という明かりの多さも後押しして、初めての取り組みであるにも関わらず、キャンドルを用いた類似のイベントに引けを取らない、見ごたえあるイベントと自負している。しかも、陳列されたキャンドルの数は 1,500 個。当初の予定を 500 個も上回るキャンドルの数に、実行委員の努力がうかがえた。今回、使用したキャンドルの一部は、養護学校で障害のある生徒たちが作って提供してくれたキャンドルであり、他の一部は、地域交流活動として、障害のある子とない子が一緒になって作った手づくりキャンドルである。色とりどりのキャンドルを見るにつけ、本事業の目的「障害のある青少年の社会参画」「障害のある子とない子の地域交流」が達成されたことを実感した。</p>		

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。(続き)

子どもをはじめ、大人と子どもと一緒に「命の大切さ」を考える契機となるように取り組んだ「命のストーリー」では、短期間にも関わらず、4名の方が出演に応じてくださった。障害のある子どもを持つお母さん、障害のある子どもを持つ助産師さん、虐待の事実を目の当たりにしている助産師さん、出産に悩み最終的に生む事を選択し待ち望んで出産に挑んだお母さん、色んな立場の母親から貴重な体験談を語っていただいた。

原稿を書いた本人が、原稿を読み上げる形式を取ったが、舞台設置・音響にご協力いただいた財団法人10-Boxさんから、舞台上で読み上げる人は本人ではなくて、役者などに託しても魅力的な「命のストーリー」になるだろうとの提案をもらった。来年度の課題として受け入れたい。来場してくれた大人や子どもが集中してストーリーに耳を傾けられるような演出を考えたい。

障害のある青少年の社会参画(荒川知子さんや宮城教育大学学生さんとダウン症の若者によるヒップホップダンス)だけでなく、地元、南中山地区の太鼓集団にもイベントに参加してもらった。障害のあるなしに関わらず、地域の方々にも参加してもらうことも重要と考えたためである。本事業の趣旨が、「子どもたちの安全を地域で守るコミュニティの実現」にあるため、地域で活動する団体が関わることによって、各団体が意識を高め、子どもたちを見守るまなざしを持つことが大切と考えたからだ。今回のように、地域の団体が参加することによって、子どもたちも地域で活躍する団体、地域の大人との接点ができる。

結果的には、本事業を通して、地元太鼓集団だけでなく、ロウソク提供者である企業、ボランティアとして手を貸してくださった地元短大の方々、事業企画者として協力してくださった地元住民並びに自治会の方々など、様々な大人や若者が、子どもたちの健やかな成長を願って、力を出し合っている姿を子どもたちに伝え、社会に訴えることができたと思う。

【活動記録】

新聞報道・・・河北新報 2007年6月10日付「揺れる炎 命に思い」

テレビ報道

写真・・・別に提出します「みやぎ夢燈花2007報告書」を参照下さい。

今回の事業によって、団体の活動や地域社会にどのような成果・効果がありましたか。

1 各種いろんな団体との連携が上手く図られ、各団体がそれぞれの立場を生かして活動に関わってくれた。

企業による資材（ロウソク・トラック・砂など）の提供、
財団法人による機材（音響機器）と人材（機材操作）の提供、
地域子ども会による協力（ロウソク作りの参加者募集）
地元の学校による協力（会場の提供、資材の提供）
地元の大学との連携（大学教授と学生の協力）
住民による協力（ロウソク作りやオープンカフェの運営、当日準備と片付け）
私立幼稚園による協力（「命のストーリー」の募集）
「みやぎ子育て・女性健康支援センター」所属の助産師さんの出演など。

2 啓発活動としての意義が存分に認められた。

事業の趣旨を常に意識しながら準備を進めてきたことにより、実行委員内部にも、関係団体にも、当日参加者にも、単なるロウソク点火のイベントではないことを訴えることができた。特に、「命の尊さ」について、協力して下さった関係団体に訴えることができた。

会場を提供して下さった南中山小学校校長は、みやぎ夢燈花が訴える「命の尊さ」などは、子どもたちに伝える必要があるメッセージであり、地域がやっているのに学校が無関心でいるわけにはいかないと動き出し、授業でも取り上げるようになった。

3 事業目的の達成

各種団体が協力し合うことによって地域に根ざした社会事業を成し遂げる過程は、まさに目的に掲げた「子どもたちの平和と安全を地域で守るコミュニティの実現」になっていた。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。

また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。

1 予算の立て方

予算案を作成したが、作成後に、支出の項目に抜けているものがあった。

解決に向けて

初めての取り組みとなる本事業の会計報告を参考にして、来年度は予算案を立てる。

各方面の協力者に対して、全てを無償のボランティアとして対処するには心苦しい場合でできた。ボランティアの有償について、再考しなければならない点も見えてきた。

解決に向けて

無償ボランティアと出演者や舞台づくりの協力者など謝礼を出すべき相手とを区別して、必要な経費は予算に計上する方向で検討する。

2 会の運営の仕方

実行委員会を立ち上げ、活動に一度でも協力して下さった方々を広く「実行委員」として位置づけ運営してきたが、今後、各地域で夢燈花が広がっていくことを期待すると、会の運営のあり方について再考する必要があるとの結論に至った。

解決に向けて

本事業も含めて会の運営そのものに責任を持つ人を役員（役員会）とし、本事業の実行に携わる人を実行委員（実行委員会）とする。

<p>今回の事業を、今後どのように展開していきますか。 また、その際に必要なものは何ですか。</p> <p>1 認知度の向上：本事業の報告会を仙台駅周辺において開催し、大々的に宮城県下の企業や団体、広く市民に、当事業の社会的意義を理解を図る。 そのために必要なもの 会場、報告会にかかる経費、今回協力してくださった各団体や企業の理解、広報の力</p> <p>2 会員拡大：本事業の報告を通して当会の理解者を増やし、さらには、具体的な支援者となる会員を募集する。 そのために必要なもの 本会の説明の手助けとなるパンフレットやチラシの作成、それらを置いてくれる場所</p> <p>3 イベントの充実：本事業を来年も継続して開催する。 そのために必要なもの 今年度の反省（良い点は残し、悪い点は改善する）、地域の協力、活動資金</p>
--

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	200,000	200,000	
自己資金	60,000	95,135	
寄付金	40,000	88,000	
カフェ売上げ	50,000	63,400	
合計	350,000	450,535	

支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
通信費	5,000	10,180	
印刷費	40,000	40,000	
会議資料代	10,000	10,527	
交通費	50,000	50,000	
ゲスト旅費	100,000	100,000	
謝金	80,000	42,000	
カフェ材料費	20,000	62,486	
カフェ備品代	5,000	13,341	
モニュメント材料費	30,000	52,201	

モニュメント謝礼	10,000	5,000	
会場電気代	0	2,000	
照明・音響機材借用費・人件費	0	10,000	
イベント保険代	0	10,800	
プロジェクター破損修繕費	0	42,000	
合計	350,000	450,535	

寄付をいただいた方へのメッセージをどうぞ

「みやぎ夢燈花 2007」の開催にあたり、物心両面から支えていただき、誠にありがとうございました。おかげで成功裡に終了できました。

このイベントで形成された輪をさらに大きく成長させ、趣旨を宮城に根ざしていきたいと考えています。

今後のご支援、ご協力をお願い致します。